

大海報第六拾號

七月五日午前大本營首着電上村第二艦隊司令
長官報告ノ要領左ノ如シ

七月一日午後六時四十分敵艦「ロレアル」「グロンボイ」
「フネリツク」三隻對馬東水道ヲ南下シ海峡ヲ
通過セントス我艦隊ハ對馬壹岐ノ間ニ於テ其前
路ヲ扼シ之ニ迫リシニ敵ハ我艦隊ヲ認ムルヤ急ニ舵
ヲ轉シテ北々東ニ逸走セリ此時彼我ノ距離約十二
海里我艦隊ハ全速カラテ之ヲ追躡セシモ時漸ク
薄暮ニ近ク將ニ敵ノ形跡ヲ失ハントス我水雷艇隊
ノ一部ハ益々進テニ三海里ニ迫リシトキ敵ハ探海燈ヲ
照ラシ猛射防戦ニ努ム我艦隊ハ益々之ニ迫リシモ

18

砲戰距離ニ達スルニ至ラスレテ午後八時五十分敵ハ
忽然燈火ヲ滅シテ暗中ニ没セリ我艦隊ハ百方之
ヲ搜索セシモ遂ニ之ヲ発見スルヲ得ス我艇隊モ亦
水雷射距離ニ達スルニ至ラスレテ敵ヲ逸セリ

明治三十七年七月五日 大本營海軍幕僚

24

大海報第六拾號

生

24

七月五日午前大本營著電上村第二艦隊司令
長官報告ノ要領左ノ如シ

七月一日午後六時四十分敵艦「ロリア」「グロンボイ」、
「リネーリック」三隻對馬東水道ヲ南下シ海峽ヲ
通過セントス我艦隊ハ對馬壹岐間ニ於テ其前
路ヲ扼シテ之ニ迫リシニ敵ハ我艦隊ヲ認ムルヤ急ニ舵
ヲ轉シテ北々東ニ逸走セリ此時彼我ノ距離約十二
海里我艦隊ハ全速カヲ以テ之ヲ追躡セシモ時漸ク
薄暮ニ近ク將ニ敵ノ形跡ヲ失ハントス我水雷艇隊
一部ハ益進テニ海里ニ迫リシトキ敵ハ探海燈ヲ
照ラシ猛射防戦ニ努ム我艦隊ハ益々之ニ迫リシモ

砲戰距離ニ達スルニ至ラスシテ午後八時五十分敵ハ
忽然燈火ヲ滅シテ暗中ニ没セリ我艦隊ハ百方之
ヲ搜索セシモ遂ニ之ヲ發見スルヲ得ス我艇隊モ亦
水雷射距離ニ達スルニ至ラスシテ敵ヲ逸セリ

明治三十七年七月五日

大本營海軍幕僚

明治三十七年七月五日 陸軍省

生

九一三七

24

陸軍省御用船和泉丸、常陸丸、佐渡丸乗組員敵艦收容後ノ状況取調方ニ付御願

別表記載ノ陸軍省御用船和泉丸乗組員ノ大部分ハ露國軍艦ニ收容セラレタルモノ、如シ又常陸丸、佐渡丸ノ乗組員中現ニ生存スル者及死體ノ發見セラレタル者ノ外ハ皆行衛不明ニシテ其中露國軍艦ニ收容セラレタル者モ可有之右家族ノ者共ニ於テモ之カ安否如何ニ就テハ深ク痛心罷在候次第ニ御坐候間何卒右三船ノ乗組員中露國軍艦ニ收容セラレタル者ノ氏名及收容後ノ状況御取調被成下相分リ次第御通報被成下度此段奉願候也

日本郵船株式會社

明治三十七年七月四日

日本郵船株式會社

近藤廉平

外務大臣男爵小村壽太郎殿

常陸丸佐渡丸和泉丸乗組船員遭難調

明治三十七年七月二日調

常陸丸

- 一 死亡者 即今死体発見セシ者 六名
- 一 生死不明ナレドモ死亡ノ疑アル者 九十六名
- 一 生存者 十七名

生存者等ノ申立ヲ綜合シテ推測スルニ本船船員ハ敵艦ヨリ砲撃ヲ受ケタル際負傷ノ為メ死亡シ又ハ本船ノ沈没ト共ニ溺死シ或ハ漂流ノ後溺死シ敵艦ニ收容セラレタル者ハ皆魚トハ断言シ難カシモ生死不明者ノ多数ハ死亡ノ疑アリ

佐渡丸

- 一 溺死ノ疑アル者 六名
- 一 行衛不明者 二十名
- 一 敵艦ニ被收容ノ疑アル者 六名
- 一 生存者 八十七名

生存者等ノ申立ヲ綜合シテ推測スルニ本船船員中行衛不明者ノ内ニハ若干名敵艦ニ收容セラレタルノ疑アリ

和泉丸

本船乗組船員ハ一人モ歸還セサルヲ以テ模様ヲ知ルニ由ナキモノ守司令部ニ於テ同船乗組兵士等ヲ取調ラレタル處ニ依リ遭難當時死亡者四名以外ノ者ハ多分敵艦ニ被收容ノモノト察セラル

(明治三十七年) 常陸丸乗組役員調

明治三十七年七月二日調

籍	職名	月給額	氏名
英國	船長	百七十圓	John Campbell
英國	一等運轉士	百圓	Samuel J. Billet
英國	二等運轉士	四十圓	木村 亀次
英國	三等運轉士	三十圓	山崎 良助
英國	高等航海士	十五圓	松本 儀三
英國	高等航海士	十五圓	用正 真盛
英國	高等航海士	十五圓	武田 邦蔵
英國	高等航海士	十五圓	立岩 義雄
英國	高等航海士	十五圓	西島 得一
英國	機関長	百八十圓	James Glass
英國	一等機関士	五十圓	立岩 義雄
英國	二等機関士	四十圓	西島 得一

籍	職名	月給額	氏名
不明	次席	三十五圓	鈴木 鶴三郎
不明	首席	三十四圓	田島 幸三
不明	次席	三十四圓	武谷 栞三
不明	次席	三十四圓	小河 寛二
不明	次席	三十四圓	森本 圭次郎
不明	事務長	四十圓	太田 耕平
不明	事務負	三十四圓	戸田 一男
不明	全	二十四圓	九茂 徹吉

役員合計 十八名

明治三十五年 (明治三十五年七月言調)
常陸九乘組属員調
二月七日供用

常属ノ一

摘要	本籍地	職名	月給額	氏名
死体発見 (本人不認定)	廣島県庄原郡鴨波瀬村八番番次一番屋敷平氏	水夫長	十九日	河内鶴松
不明死亡	廣島県加賀郡仁方村一番屋敷平氏長格三男	大工	十九日	松本勘次郎
不明死亡	廣島県安藝郡倉橋島村百九十八番屋敷平氏	大工助手	十五日	友澤友太郎
不明死亡	廣島県豊田郡久友村字冲友四番地平氏	舵取	十七日	藤田勝次
不明死亡	大分県北海部郡下江村二六番地平氏	舵取	十七日	伊東助市
不明死亡	徳島府父島三根村三番平氏豆太郎弟	舵取	十五日	土屋小三郎
不明死亡	河内県至那河岸村字北川十四番地平氏三男	甲板倉番	十六日	白汚共市
不明死亡	福井県坂井郡新保村十六番二番地平氏三郎次男	点燈方	十四日	波上吉五郎
不明死亡	愛媛県砥部郡戸前村大字字前二九番平氏徳太郎養子	水夫	十三日	二見金次郎
死体発見 (本人不認定)	横濱市光町四丁目一五番地平氏			
死体発見 (本人不認定)	廣島市宇品町四番八番屋敷平氏源治長男	水夫	十三日	船倉義一
不明死亡	香川県木田郡庵治町二番平氏常藏長男	水夫	十三日	増谷貞吉
不明死亡	新徳島中環郡根越村大字田屋三番平氏助作弟	水夫	十三日	杉浦開治
不明死亡	千葉県夷隅郡大原町三七六番地平氏	水夫	十二日	永野真太郎
不明死亡	京都市中京区四条通新町西入四郎屋三番平氏	水夫	十二日	森島治三郎
不明死亡	岡山県津島郡大島中村三三番地平氏七郎長男	水夫	十二日	二階堂元藏
不明死亡	廣島県沼津郡田島村五番屋敷平氏定平二男	水夫	十二日	鈴木藤松
不明死亡	廣島県御調郡向島西村二五番屋敷平氏忠六長男	水夫	十四日	坂井太吉
不明死亡	能登県鹿本郡大遣村大字万保田三三番地平氏辰次長男	水夫	十四日	野田新吾
不明死亡	大分県西區九条大字九条番外一三三番屋敷平氏	水夫	十四日	坂田萬次郎
不明死亡	栃木県安蘇郡植野村大字船津川七番地平氏万吉二男	水夫	十四日	福地直次郎
不明死亡	沖繩県島尻郡座間味町切座味村三十四番地平氏	水夫	九日	仲村盛吉

不明七上毛 死亡ノ疑アリ	廣島縣山田郡友村字友一〇二 平民 森茂 大郎 小三子	水夫	九四	沖本友一
生存	廣島縣山田郡友村字友三 平民 朋 廣島縣山田郡友村字友三 平民 朋 東条君南多之助八三子 横山二六 平民 廣田 三男	水夫	九四	吉原捨吉
不明七上毛 死亡ノ疑アリ	兵衛出右郎出右郎 友字 田 院 堂	日	九四	河井清吉
生存	廣見島知薩之經 友江村 友江三 士族 彦 廣島縣山田郡 友田 友田 友田 友田 四男 四男 四男 四男	水夫見昭		植村元藏
不明七上毛 死亡ノ疑アリ	神奈川縣橋本郡 友田 友田 友田 友田 大分大分郡 高田村 三九 平民 曆 友 彦 神戶市 兵庫 東川 岩川 三二 平民 友 彦	大夫長	八四	徳留紋之丞
生存	愛媛縣 湯原 味生村 大字 南 齊 院 七三 平民 志五郎 長男	油差	七四	田中倉松
死体発見 一人上 埋 墓 之	千葉 浦 君 津 那 青 徳 村 大 徳 八 九 士 族 廣島 二 男 廣島 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	七四	鈴木菊次郎
		日	七四	中村由太郎
		日	七四	友田徳松
		日	七四	一色房三郎
		日	七四	小野廣二
		日	七四	宮元猪助

不明七上毛 死亡ノ疑アリ	福島縣 石 根 郡 平 野 字 三 月 一 九 平 民 山梨縣 中 巨 野 郡 百 田 村 九 二 平 民 友 彦 各 取 各 氣 友 彦 友 彦 友 彦 友 彦 友 彦 友 彦 廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	大夫	十三四	山崎勇次郎
生存	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	清水運吉
不明七上毛 死亡ノ疑アリ	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	鈴木勉二
生存	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	橋寄島吉
不明七上毛 死亡ノ疑アリ	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	濱久吉
生存	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	濱口豊次郎
不明七上毛 死亡ノ疑アリ	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	赤松龜次郎
生存	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	藤原重助
不明七上毛 死亡ノ疑アリ	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	柏木甚作
生存	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	山瀬辰次郎
不明七上毛 死亡ノ疑アリ	廣島縣 各 安 藝 政 倉 橋 島 村 一 七 五 九 平 民 松江 郡 友 彦	日	十三四	堀本甚太郎

不明ナレトミ
死亡ノ疑アリ

愛媛県北宇和郡宇和島町大字檢支町
一三番戸平氏戸主
愛媛県越智郡東伯方村大字木浦ノ番
五番戸平氏又洛春嗣子
新潟県中頸城郡高田町大字下職合番
八二番平氏北作長男
長野県西筑前郡奈良川村一八番地
長崎県南松浦郡富江村九五番戸平氏
清盛弟
山梨県中巨野郡玉指村一六五番戸
平氏 末藏二男
石川県鹿島郡七尾町字本町三番地一
平氏 向田与三右三門養子
高知県吾川郡小川村樵木山無家平氏
徳次三男
福岡県速賀郡黒崎村二六八番地
伊三郎長男
廣島県加茂郡竹原町一三三番屋敷
平氏 儀助二男
千葉県長生郡東原村谷本一六三番地
平氏 仙吉弟
岐阜県山県郡岩野田村栗野一八番戸
土族 鍾蔵長男

火夫
十二四 玉和木寅一
十二四 中村音吉
十二四 田中一造
十二四 伊藤市平
十二四 池田竹松
十二四 新海銀治郎
火夫
十二四 向田市太郎
十四 岡林若馬
十四 森田喜九郎
十四 渡槁栄松
十四 関谷菜助
十四 阿部健次

石炭夫
九四 望月彌作
九四 大塚鶴太郎
九四 石田長次郎
九四 井上新太郎

大夫見習無給
神壽次郎
荷物方
十四 前田外巻
十一 浮穴竹三郎
司厨
廿五 喜多傳一
料理人
三三 小淵磯八
料理人
十六 桂為治郎
料理人
十四 松本寅藏

常島ノ三

不明ナレトミ
死亡ノ疑アリ

静岡県安部郡安未村北安未
愛媛県上浮穴郡父崎村一二三
京都府愛宕郡宇下鴨村二一
鹿児島市住吉町九

今志名石炭夫兼組居ル者ナレトミ
氏名不詳ニ付取調中

千葉県君津郡金田村牛込一四〇
神壽徳次郎同居平氏長孫次男
福井県福井市豊島中町七番地二
土族 彦之助二男
愛媛県越智郡今治町大字室屋町
五番地ノ二番戸土族 慎平三男
佐賀県藤津郡五所田村大字谷所
三番地内居士族 戸主
長崎県十善寺栢田一三番地平氏戸主
廣島市宇白島町一番地ノ一平氏戸主
埼玉県北埼玉郡豊野村大字阿佐間
四番地平氏 戸主

石炭夫
九四 望月彌作
九四 大塚鶴太郎
九四 石田長次郎
九四 井上新太郎

大夫見習無給
神壽次郎
荷物方
十四 前田外巻
十一 浮穴竹三郎
司厨
廿五 喜多傳一
料理人
三三 小淵磯八
料理人
十六 桂為治郎
料理人
十四 松本寅藏

常馬四

不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 静岡市草深町百十五番地	和 料 理	十二 四	河 合 善 足
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 岡山県都窪郡庄村大字和島五十五番地平民 神奈川県橘樹郡田村市場一三四九	和 料 理	九 四	大 村 寛 孝
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 福岡県朝倉郡杷木村大字地田六六三番地 平民孫六三男 兵庫県中粟郡山崎町内山崎町三四八番地 敷平民戸主	和 料 理	八 四	片 山 伊 三 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 愛媛県温泉郡神和村大字元怒九六 山口県厚狭郡厚原村三三三番地敷平民孫作 三男 廣島県豊田郡忠海町四四六六番地平民 石川県沼津郡山代村字山代六十八番地 上族戸主	和 料 理	八 四	三 宅 吟 兵 衛
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 静岡岡田方郡内浦村重寺三番地平民 六子長男	和 料 理	八 四	森 柳 太 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 廣島県豊田郡忠海町四四六六番地平民 山口県沼津郡山代村字山代六十八番地 上族戸主 静岡岡田方郡内浦村重寺三番地平民 六子長男	和 料 理	八 四	井 手 豊 作
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 廣島県豊田郡忠海町四四六六番地平民 山口県沼津郡山代村字山代六十八番地 上族戸主 静岡岡田方郡内浦村重寺三番地平民 六子長男	和 料 理	七 四	進 明 重 吉
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 愛媛県温泉郡神和村大字元怒九六 山口県厚狭郡厚原村三三三番地敷平民孫作 三男 廣島県豊田郡忠海町四四六六番地平民 石川県沼津郡山代村字山代六十八番地 上族戸主	和 料 理	七 四	柳 瀬 庄 松
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 廣島県豊田郡忠海町四四六六番地平民 山口県沼津郡山代村字山代六十八番地 上族戸主 静岡岡田方郡内浦村重寺三番地平民 六子長男	和 料 理	七 四	竹 内 正 作
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 廣島県豊田郡忠海町四四六六番地平民 山口県沼津郡山代村字山代六十八番地 上族戸主 静岡岡田方郡内浦村重寺三番地平民 六子長男	和 料 理	十 二 四	河 田 信 之 助
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 廣島県豊田郡忠海町四四六六番地平民 山口県沼津郡山代村字山代六十八番地 上族戸主 静岡岡田方郡内浦村重寺三番地平民 六子長男	和 料 理	十 二 四	伊 藤 六 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	香川県三豊郡吉津村里番戸平民房治長男 廣島県豊田郡忠海町四四六六番地平民 山口県沼津郡山代村字山代六十八番地 上族戸主 静岡岡田方郡内浦村重寺三番地平民 六子長男	和 料 理	十 二 四	土 屋 礦 造

不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	十 二 四	砂 田 寅 松
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	十 二 四	樋 口 朝 生
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	十 二 四	高 浦 捨 三 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	八 四	末 塚 信 之 助
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	七 四	鐵 口 嘉 太 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	七 四	福 田 龜 次 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	九 四	七 井 盛 吉
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	七 四	石 田 勇 三 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	八 四	片 田 格 二 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	七 四	小 川 修
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	八 四	官 下 吉 太 郎
不明 死亡 疑アリ	生存	廣島県沼津郡吉和村八七三番地敷平民藤助 山口県沼津郡伊佐村六一九番地敷平民孫 東高市白漆橋郷北新橋河原上地平民孫 廣島市宇竹屋村高宇田番地敷平民延部男 山口県豊浦郡清来村大字清来五百五番地 平民五歳五男 横濱市戸村町三四一番地平民孫三男 廣島県安藝郡仁保島村三三九 福井県福井市大和町三九番地平民戸主 新潟県中頸郡直江津町大字直江津一里 平民五歳三男 千葉県山根郡片貝村片貝二七四三番地平民 小川長男 長野県上村郡伊那町九五三番地平民八三郎長男 香川県善徳郡吉野寺家五番戸平民孫六二男	等 給 仕	八 四	坂 井 磯 吉

不明(此死七)
疑り
左左
左左
左左
左左
生存
生存
不明(此死七)
疑り

千番系及津那飯野村下飯野八十七番地
小野光孝方口方士族森氏系
山口県都濃郡徳山町五七六
長野県上伊那郡赤穂村大字四
千番系安房郡白旗村七百八十三番地
上族末通長男
廣島県御調郡原田村大字小原百六十二
番地平民産主
和山県日高郡比井町村大字阿尾四百七十四
番地平民由松氏
京都府南桑田郡龜岡町字倉部百六十二
番地平民竹二郎三男
埼玉縣入間郡勝呂村大字赤尾

三寺冷仕 八 秋葉吉之助
三寺冷仕 七 生駒周次
三寺冷仕 四 船坂孝右郎
三寺冷仕 七 野村貞道
三寺冷仕 五 三浦利左衛門
三寺冷仕 五 末倉五郎松
三寺冷仕 四 八田才次郎
三寺冷仕 四 林 新蔵

合計百〇姓名

常例ノ五

(明治三十七年) 佐渡丸乗組役員調 (明治三十七年有吉親在
五月十日供用)

摘要	籍	職名	月給額	氏名
英人	英人	船長	二百圓	William Dundas
英人	英人	一等運務士	百圓	John H. Dunge
英人	英人	二等運務士	四十圓	草野 徳
英人	英人	三等運務士	三十圓	中島 忍太郎
英人	英人	次席	三十圓	鎌田 直人
英人	英人	三席	五圓	水島 辰之助
英人	英人	日 上	五圓	高島 長孝
英人	英人	機関長	百八十圓	William Sten
英人	英人	一等板園士	十四圓	Eric Cameron
英人	英人	日 上	十五圓	弘内 康象
英人	英人	首席	五十圓	

生存	山口 美茂 藤野 吉 柳村 二五 士族	次席	四十圓	鳥居 帛三
不明	宮城 仙 仙台市宮内二九 平民	三席	三十圓	中村 源吾
不明	唐津 有 在 京 郡 品川 北品川 九七 平民	四席	三十圓	天野 喜太郎
生存	唐津 有 在 京 郡 品川 北品川 九七 平民	日 上	三十圓	宮内 義彦
不明	唐津 有 在 京 郡 品川 北品川 九七 平民	員外	三十圓	岩松 經麿
不明	唐津 有 在 京 郡 品川 北品川 九七 平民	本板園士	五圓	宮部 清
不明	唐津 有 在 京 郡 品川 北品川 九七 平民	事務長	四十圓	跡長 勝衛
不明	唐津 有 在 京 郡 品川 北品川 九七 平民	事務員	十八圓	河田 儀四郎
不明	唐津 有 在 京 郡 品川 北品川 九七 平民	合計	十八名	

生
存
不
明
生
存
不
明
生
存
不
明
生
存

（明治三十七年
五月九日附用）
佐渡佐東領舊員調

神奈川縣横濱市壽町三丁目八番地平民
松岡物次郎 松村入南 乙十二番地平民
松岡物三郎 松岡村板木 乙九番地平民
松岡物長岡 三丁目 柳崎 乙二番地平民
松岡物長岡 三丁目 柳崎 乙二番地平民
松岡物長岡 三丁目 柳崎 乙二番地平民
松岡物長岡 三丁目 柳崎 乙二番地平民
松岡物長岡 三丁目 柳崎 乙二番地平民
松岡物長岡 三丁目 柳崎 乙二番地平民
松岡物長岡 三丁目 柳崎 乙二番地平民
山形縣新庄町藤山 山形平民
廣島縣沼津町花野村三十八番地平民

（明治三十一年
六月十六日附用）
（明治三十七年六月九日迄）
佐渡佐東領
職名
月給額
氏名

水大長十九円 福永龍太郎
大 下十九円 鶴田長八
本助手十九円 井上高治郎
舵 取十七円 堀内亀太郎
舵 取十七円 山本佐次郎
舵 取十七円 野中駒吉
舵 取十七円 塚田長蔵
高燈方十六円 太田長三郎
水 大 十三円 長井中蔵

生
存
不
明
生
存
不
明
生
存
不
明
生
存
不
明
生
存

大方縣大方町三丁目三番地平民
和歌山縣和歌山市江住町大字里野六百九番
德島縣德島市大字高田浦町七百五番地平民
徳島縣三河津浦町大字江浦町四百三番地平民
香川縣木田郡庵治村一千五百番地平民
德島縣徳島市大字高田浦町七百五番地平民
山口縣豊浦郡清末村二百七番地平民
高知縣高知郡和歌村七番地平民
高知縣高知郡和歌村七番地平民
徳島縣徳島市大字高田浦町七百九番地平民
徳島縣徳島市大字高田浦町七百九番地平民
徳島縣徳島市大字高田浦町七百九番地平民
徳島縣徳島市大字高田浦町七百九番地平民
徳島縣徳島市大字高田浦町七百九番地平民
徳島縣徳島市大字高田浦町七百九番地平民
徳島縣徳島市大字高田浦町七百九番地平民

水 大 十二円 小川利八
水 大 十三円 山本富吉
水 大 十三円 只出善経
水 大 十三円 荒木由太郎
水 大 十二円 鈴木常太郎
水 大 十二円 久太嘉中
水 大 十四円 長石松太郎
水 大 十円 福片輝水
水 大 十円 安藤定八
水 大 十円 平袈裟物
水 大 九円 岡本建治
水 大 九円 東村曜

生存	康見島縣怡良郡山田村大山五二平民	水夫	九円	出水亀吉
同	福島縣相馬郡太田村鶴巻字輪五五平民	水夫	九円	門馬重治
同	備後國廣島郡服部村字新山	水夫	十円	近藤利右門
同	廣島縣豊田郡久友村字久比一六八	水夫	見習	萬徳庄太郎
同	神奈川縣橋本郡保土谷町神戸七三六平民	火夫長	十八円	古谷清吉
不明	茨城縣猿島郡五霞村大字山五四六平民	油差	十七円	関 峰次郎
生存	千葉縣印旛郡佐倉町向将門町三八士族	油差	十七円	赤尾 湛
不明	栃木縣那須郡佐久山町字佐久山五八平民	油差	十六円	加藤芳三郎
生存	佐賀縣藤津郡久間村三六二平民	油差	十六円	田中清八
同	廣島縣御調郡重井村一八四平民	油差	十六円	峯松藤三郎
同	三重縣志那郡大野村七九平民	油差	十六円	高山光次郎
同	愛媛縣温泉郡北条町大字安居島一六六平民	油差	十六円	大堀忠吉

佐属三

不明	愛媛縣越智郡弓削村大字弓削二六八平民	火夫	十三円	山崎富太郎
生存	廣島縣御調郡三庄村一五二同居士族	火夫	十三円	坂口幸平
同	長野縣埴科郡坂城村一三七平民	火夫	十三円	谷川直次郎
同	群馬縣邑樂郡三野谷村大字入谷村二一平民	火夫	十三円	篠原林蔵
同	茨城縣行方郡玉造町一五三平民	火夫	十三円	長谷川清太郎
同	高知市掛川町六五平民	火夫	十三円	田中徳治
同	愛媛縣喜多郡内子町大字内子甲一九七平民	火夫	十三円	米澤喜多吉
同	廣島縣御調郡重井村四九二平民	火夫	十三円	村上紋之助
同	三重縣南牟婁郡井田村字井田二〇戸生	火夫	十二円	尾崎梅松
同	鹿児島縣川辺郡東南方村枕崎三六四平民	火夫	十二円	原村清之助
同	兵庫縣榎保郡越部村内仙村七平民	火夫	十二円	加島藤彌
同	鹿児島縣鹿島郡鹿島郷南村一三〇平民	火夫	十二円	橋野太蔵

生存	廣島縣尾道市久保町五〇六平民	和食料理人	十四円	竹内鶴松
同	香川縣仲多度郡南村大字山北三七四居平民	和食料理人	十四円	田中石松
同	長崎縣壹岐郡香椎村可須七七三平民	和食料理人	十五円	土肥貞市
同	栃木縣安蘇郡大伏町大字大伏無番平民	和食料理人	十二円	長谷川豊吉
同	兵庫縣津名郡廣石村七〇平民	和食料理人	十二円	丸山宇平
同	山梨縣東八代郡石和村字鶴飼一九〇平民	和食料理人	十二円	山中藤次郎
不明	栃木縣下都賀郡大宮村字大宮三四四平民	一等給仕	十二円	高島源藏
生存	岐阜縣郡上郡高田村字上田六四	一等給仕	八円	橋詰勘之助
不明	三重縣鈴鹿郡關町大字木崎町一三三平民	一等給仕	五円	荒木静也
生存	京都市上京区第五子組下本等前町三三平民	一等給仕	十二円	大石萬次郎
同	神奈川縣中郡喜妻村山田二七三平民	一等給仕	十円	脇久七
同	愛媛縣北宇和郡高光村高平平民	一等給仕	八円	永田市太郎

佐藤白

生存	兵庫縣多可郡重春村内谷村七平民	一等給仕	十円	遠藤和三郎
同	三重縣桑名郡古養村大字古野二六三平民	二等給仕	十円	石川周太郎
同	横濱市常盤町三丁目四二平民	二等給仕	九円	合田光三
同	福島縣雙葉郡宮岡町小濱字歌八二平民	二等給仕	六円	渡邊保助
同	福井縣都賀郡東浦村杉津第土三三平民	二等給仕	九円	辻音吉
同	長崎市十善寺稲田二八平民	三等給仕	八円	後藤和三郎
同	愛媛縣温泉郡粟井村大字和田二六平民	三等給仕	七円	山中喜作
同	廣島縣佐伯郡飛渡瀬村一五六二平民	三等給仕	七円	大隅信一
不明	和歌山縣源藏馬場三丁目二番地番戸士族	三等給仕	七円	由良喬夫
生存	大分縣下毛郡豊田村二八平民	三等給仕	六円	小西市郎
同	神奈川縣橘樹郡住吉村木月一三〇平民	三等給仕	六円	嵯峨野子之助
同	鳥取縣西伯郡中濱村奈小篠津五四平民	臨時和食料理人	十二円	角安太郎

全 全 全 全
不 明
生 存

廣嶋市宇山五三番次者為士族
廣嶋市宇山四三番次者為士族
出物政河郡川下村二方八回庄手成
大坂府西成郡傳法村本堂御寄九四手成
出物政河郡傳法村本堂御寄九四手成
出物政河郡傳法村本堂御寄九四手成
山口野大島郡日長庄村土庄手成

属員合計百七

十円
五円
五円
五円
五円
四円

中村多門
香川勝吉
清水在宗
大平本太郎
北島一太郎
松下良次郎
野村松太郎

佐家ノ四

(明治三十七年三月四日 供用)

和泉丸乗組役員調

(明治三十七年六月十六日現在)

原籍

籍

職名

月給額

氏名

東京府荏原郡品川町大字北品川路三七番地

船長 百五十四 肥後猪之丞

静岡県田方郡中大見村柳瀬三番地

一等運轉士 五十四 柳生甲子郎

神戸市東平野村二百五十番地 柳生慶子

二等運轉士 三十四 柴田信藏

兵庫県伊南郡東神吉村白西井戸村五十二番屋敷 平民吉太郎 四男

三等運轉士 三十四 白鳥信一

長野県上伊那郡安曇村百四十四番地 平民

本校航海科 修業生 五十四 中津幸次郎

徳島県勝浦郡小松島村大字中郷村百六十八番屋敷 平民 原五郎 四男

廣島航海科 修業生 五十四 遠藤拓二

高知県長岡郡三里村仁井田百九十七番屋敷 平民

機関長 百三十四 久保 傳

栃木県下都賀郡南大銅村大字國谷三八番地 平民

二等機関士 四十四 高山義治

。東京市下谷区四町二番地 信房 長男

一等機関士 四十四 柳原敏久

兵庫県赤穂郡有年村白東有年七十三番屋敷 平民

二等機関士 三十四 青木久次郎

。神戸市東平野村五十六番 四

執職 三等

東京府北豊島郡王子村大字王子二百二十九番地 平民

執職 三等

。東京市下谷区四町二番地 林藏 弟

二等機関士 三十四 青木久次郎

。東京市下谷区四町二番地 林藏 弟

輕傷

埼玉県北埼玉郡忍町大字忍五百七番地 平民

信房 長男

員外 三等機関士 三十四 國分熊男

山口県熊毛郡上関村大字長島五百六番屋敷 平民

簡易機関科 修業生 五十四 今田重藏

東京市深川區小松町六番地

事務長代理 三十四 吉田栄次郎

静岡県田方郡三島村六百六十九番地

事務員 三十四 古谷文次郎

役員合計 拾四名

電受第 26 / 號 Wda. 87

大臣 山

次官 生

政務 通商 人事 會計 取調

騰為濟

Dated, 190 ..m.
Received,m.

小村外務大臣

第二百七十二號

和泉丸佐渡丸遭難者ニ二等客車ニ二三等客車

ニ乗リ六月廿五日哈爾濱ニ停車セリ其人名左如

和泉船長

機関長

運轉手

八木

工藤

柴田

高山

柳原

青木

白鳥

吉田

古屋

（乗員）等、陸軍、海軍、

中津

遠藤

今田

Augustine

佐渡丸船長運轉手機関長機関師英人四名
日本人船員

岩永

岸野

廣海

鎌田

天野

末松

川田

宮部

小林

矢野

小西

中村

鉄道通信員

5-0363

0236

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

其ノ外ニ海軍少佐小倉梅田靖ニ等客車ニツキ
水夫火夫

5-0363

0237

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

保秋收才三二九二號

九二五四

客月十六日午前十一時三十分頃北海道渡島東方約百
三十海里沖合、日本形帆船安静丸露國水雷
有、襲撃せし、乗組員十七名、内十五名捕虜トシ、二
名同月十八日午前十一時頃右大嶋沖附近、右西洋形
帆船采舟丸、存、救助せし、本月四日島根縣隠岐
國釜港、上陸せし、右所、采舟丸船長大針正
ヨリ下関水上警備署、届出ヨリ、右安静丸遭難、伏波左
一福井縣坂井郡雄島村字安島第一番地平島崎北
海通北見國利尻郡恩昭村大針采舟丸、所有西洋形
帆船采舟丸船長大針正、明治三十七年七月十日山
口縣下関水上警備署、出頭し、左、女領、申候ヨリ
右采舟丸、北海道北見國利尻郡恩昭港字山田内

・此、鮪船、満載、本年六月十四日同港、度、下関港
向、航行中同月十八日午前十一時頃北海道渡島國大
島ヨリ東南約八十海里沖合、於、左、船前方約七海
里、帆船、ラ、キ、ヲ、認、止、接、入、シ、至、リ、福井縣南條郡
河野村中村三之丞所有日本形帆船(千四百クニ積積)
安静丸、ナ、ト、判、明、キ、リ、
然、ル、安静丸、船体、浮、在、ル、ニ、乗組員、見、聞、セ、テ、左
記、二、名、乗組員、裸体、ト、ナ、リ、本船、泳、キ、来、リ、シ、ト、セ、リ、付
傳、馬、船、ニ、乗、ル、ヨ、リ、注意、シ、遂、之、リ、收容、セ、リ、
其、住、可、氏、名、

福井縣南條郡河野村字賴

橋本 市 五郎

二十五六番

石川縣羽喉郡鹿浜村

東井金太郎

右兩名、言、依、安靜丸、船、和、及、船、身、約、吉、千、八、石、
 の、搭、載、し、北、海、通、天、塩、國、増、多、郡、増、毛、港、に、出、帆、し、縣、
 下、関、港、へ、向、航、海、中、六、月、十、六、日、午、前、十、時、三、十、分、頃、横、
 島、國、大、島、ヨ、リ、東、方、約、百、三、十、海、里、沖、合、に、於、り、水、際、
 國、亦、雷、艇、三、隻、併、然、襲、来、り、前、方、に、一、隻、ト、兩、艇、一、
 隻、砲、近、接、せ、り、
 前、方、右、二、名、深、ノ、船、底、潛、伏、し、し、他、船、長、以、下、十、四、名、
 永、雷、艇、捕、獲、せ、り、り、且、初、水、雷、安、靜、丸、向、リ、空、
 砲、三、發、實、弾、三、發、ヲ、發、射、し、一、發、船、部、一、發、水、平、
 線、約、七、尺、下、方、命、中、せ、り、人、命、一、員、出、テ、カ、リ、レ、又、船、
 體、沈、没、し、至、リ、サ、リ、レ、

其、レ、ヨ、リ、永、井、丸、航、路、に、迂、回、し、七、月、四、日、島、根、縣、隠、岐、國、長、
 門、港、に、着、り、安、靜、丸、船、主、并、り、其、狀、況、を、電、報、し、尚、救、助、者、
 二、名、并、り、レ、相、當、扶、養、ヲ、給、し、今、港、に、上、陸、せ、り、本、船、
 道、中、長、門、港、に、着、り、六、月、九、日、午、前、十、時、頃、島、根、縣、長、門、港、に、着、り、
 右、及、申、報、候、也、

明治七年六月十二日

山縣知事 渡邊 融

夕務大臣 野村胡堂 大郎殿

通報文 内閣外務省海防司長野村胡堂大郎殿宛 山縣知事 渡邊 融 謹言

公第一四二號

警政務局

一三七五〇

漢船丸捕虜三隻之件

漢船丸捕虜八名本月三日
在國內陸向ヶ健王シテ出費シタ
昔在南極斯德未出領事ヲ電
報アリタシ我字ニ通存月二
十三日付書来リテ在極未出
使館ヨリ通存月二日存右不取
敢茲ニ及報告ニ至 致具

明治三十七年八月二十六日

在獨日本公使館用

在極未出權後井上勝之助



平島官身對村壽館殿

Copy of Telegram

Received August 22nd from American Consul Vladivostock.

Convalescent prisoners Idzumi Maru left today for interior. Names: Fujiisaachi, Okinekosaboro, Yamaguchi-hangi, Kitaisawatohe, Sadochojumats, Okomotoyositaro, Takahanidutaro, Gototainio.

(Signed)-----Greener.

5-0363

0241

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

文書課長



明治三十一年十一月二十二日接

96

海軍省

海軍省

24

明治三十一年十一月二十二日發達

主任

政務局長

閱了

不取

〇

白

及本所始有七古

海船移居九捕船案

二付

外務省

海船移居九捕船案

其日露王力也一向大出費也

海船移居九捕船案

王領事之愛船員之打船也

海船移居九捕船案

申領事之愛船員之打船也

海船移居九捕船案

海船移居九捕船案

海船移居九捕船案

清國領事館に於て九月一日附書

管政務司

年

公第一五九號

一四七一

原封付

汽船佐信丸乗組員南島英次
「ヨシノビ」アレグソソシ「お三名」ヨシノビ

署に報告し及里を汽船佐信丸にて
捕虜トナリケル同船長英次人ヨシノビ、
アシガソソシ「お三名」ヨシノビ、御為也
「カール」ガシ「市」定「ソ」ル「と」ガシ「子」ハ「毎」
「宿」ハ「公」務「有」ヨリ「在」宿「事」ハ「大」使「ハ」直
「公」シ「マ」キ「リ」タル「熱」ヲ「以」テ「ケ」ル「日」大「使」ヨリ
「本」館「ハ」直「報」ヨリ「付」外「本」館「ハ」係
「ハ」及「報」告「者」ハ「本」館

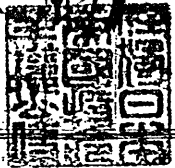
三二五五

在獨日本公使館用

光緒二十七年九月廿二日

左写

特命全權公使井上馨



外務大臣野村尚江殿

Translation.

The First Department of the Ministry for Foreign Affairs has the honour to transmit herewith to the American Embassy supplementary to its report of June 25th last, under No. I077, a copy of a communication received from the Executive Committee of the Chief Administration of the Russian Red Cross Society, dated September 6, under No. 497, giving information relative to the localization at Kalouga of four British subjects who are in the service of the Japanese Government.

No. I718. September 8 (21), 1904.

Enclosure.

Copy of a communication from the Executive Committee of the Chief Administration of the Russian Red Cross Society, dated September 6 (19), 1904.

Supplementing its communication of June 22nd last, No. I35, the Central Information Bureau relative to Prisoners of war has the honour to inform you, that, in accordance with information received from the Chief Staff, dated September 3rd, four British Subjects, namely:

George Anderson, Captain of the SS. "Sado Maru".

John Dring, Senior Officer of the SS. "Sado Maru".

William Kerr, Senior Officer of the SS. "Sado Maru".

Thomas Karmichael, Officer of the SS. "Sado Maru".

have been given residence in the town of Kalouga with the 222nd Schatsy Regiment.

附録
107

5-0363

0244

文書課

明治二十七年十一月四日

別紙

浄書 校正 済

明治二十七年十一月四日 日 起 草
同 年 一 月 一 日 發 遣

主任

政務局長

方一八

長井信房法務局長

佐渡丸會社英人

大付

外務省

佐渡丸會社英人 ジョルジ・アング

一ツンおシ表、抑留所確立、傳ニ

系シ立憲公使、後ニ有テ

者ニテ、越々立憲、井上、後ニ

百次、馬、由テ申越、存、在、此

承、テ、カ、カ、有、テ、カ、カ、カ、カ

百信、何、何、何、何、何、何、何、何

文書課

明治卅一年四月四日 起草
同日 發遣

主任

要目付

急

明治三十七年十一月四日 發遣

政務局長

上原 謙

近藤 邦 彦

佐 派 乃 嘉 次 郎

り 付

外務省

お 多 分 研

佐 派 乃 嘉 次 郎 氏 宛 書 信

インダーソン 公 之 名 義 書 信 之 於 之 所 持
為 可 確 定 之 事 也 其 事 之 由 來 亦 未 詳 也

米 心 子 氏 之 書 信 亦 未 詳 也 其 事 之 由 來 亦 未 詳 也

佐 派 乃 嘉 次 郎 氏 宛 書 信 之 於 之 所 持

中 途 有 之 事 也 其 事 之 由 來 亦 未 詳 也

佐 派 乃 嘉 次 郎 氏 宛 書 信

お 多 分 研 主 人 宛 書 信

※
Y
V
R

五

日本郵船株式会社

船名 太平洋丸 船種 郵船 寄港地 横濱、神戸、東京、大阪、神戶、岡山、広島、仙台、青森、函館
 運賃 1000円 乗務員 20名 貨物 1000箱
 船長 佐藤 徳次郎 船中 佐藤 徳次郎
 出帆 昭和 11 年 1 月 1 日

昭和十一年一月八日

郵船株式會社

正印



外務省に送るべきに付
 通知せられたるが如し
 昭和十一年一月八日

5-0363

0247

漢書

受第一〇〇五

公介四六

修液丸 船長 アンターソン

行費、買え 諸社 玉送

先叙 朝鮮 海峡、於て 手紙

お申渡、為り、船長 アンターソン

送船 修液丸、船長 アンターソン

式、月、お申渡、補遺トあり

ハ、文、補遺、交換、為り、音、相、為

後、後、修液丸、有、ハ、相、為

川、書、ハ、中、所、決、有、ハ、相、為

与、上、帝、女、改、社、ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

ハ、修、液、丸、有、ハ、相、為

在英國日本公使館

在英 國 日 本 公 使 館

外務省 野村 浩平 氏 様

The Scottish Shipstmakers' & Officers Association

Head Office,
128 Hope Street,
Glasgow, 1st., June,
1905.

May it please Your Excellency,

I am directed by the committee of the Scottish Shipmasters & Officers Association to inform you that from a communication received from His Majesty's Principal Secretary for the Foreign Affairs, Lord Lansdowne, we may at an early date look for the release of our unfortunate member, Captain George Anderson, and the other British prisoner of war held by the Russians. Captain George Anderson was in command of the Transport "Sado Maru" when that vessel was sunk by Russian ^{war}vessels. We are led to understand that the basis of a system regulating an exchange of prisoners is now under discussion between your ^{war}Government and the Government of Russia. How far toward a satisfactory understanding these negotiations have now proceeded, we are unaware; perhaps on this point Your Excellency may have additional information which you might wish to communicate. At all event, we may I think safely hope for the early release of Captain Anderson and his companions in captivity. In anticipation of that event might I suggest it would be a gracious act on the part of your Government — an act which, I doubt not, would be agreeable to your own countrymen, as well as to the people of this nation if on the release of Captain

Anderson some recognition of the services rendered by him in his espousal of the cause of the Japanese nation and for his loss and suffering occasioned by his taking an active part in the gigantic struggle which has been conducted so successfully by your countrymen. My Committee have no doubt if Your Excellency were to represent this matter in the proper quarter, Your Government would readily accede to what I would take to be Your own desires in this matter. Scotsman's heroic conduct in sacrificing their lives in the cause of Japan has already been acknowledged in a suitable way by your Government granting posthumous honours to our countryman, and member Captain Campbell of the Transport "Hitachi Maru" who laid down his life on behalf of our gallant allies. Captain Anderson was not called upon to make so great a sacrifice as this; but although in a lesser degree he has suffered, his services and their attendant consequences will not we hope on that account go unappreciated or unrecognised. Your Excellency is aware of the warm feeling that exists in this country towards your own nation and of the freely expressed hope which so far has so signally been realized, in the success of the Japanese arms against her formidable enemy. It is a source of satisfaction to ourselves that we are so closely allied to those Scotsmen who have given their services, and suffered, in the cause of Japan; it will be an additional source of satisfaction and congratulation if Your Excellency were to represent

5-0363

0249

this matter to your Government and obtain for Captain Anderson on his release from ~~your Government and obtain~~ captivity some recognition of the part he took in a war which events forced your country to engage in.

I have the honor to be

Your EXcellency's

Viscount Tadasu Hayashi, obedient servant,

En. Ex. and Min. Plen.,

to the court of St. James,

4, Grovenor Gardens,

London.

*D. Mc Intosh, captain,
Secretary.*

5-0363

0250

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

文書課長

明治二十八年七月二十二日

48

簿記校正

明治二十八年七月廿一日
同 月 日 起 草
日 發 遣

主任

政務局長

寺内陸軍大臣

桂大五

佐治丸船長アシダリシ氏ヨリ貴署ヨリ
外務省

佐治丸船長アシダリシ氏、行賈ニ
関スル請願ノ件ニ付テ、既ニ
在英林ニ使ヲ遣越有之リ、尙
可成ニ取計相成度此度及及務
別紙送付

在英受一〇〇五ノ子付倉共及居

寫 明治廿八年九月十九日接受
發第一三三三三號

佐治九三

送才六二號

佐治九社員及機園長陸軍少佐

本軍對子沖之松多浦湖那地陸隊一為砲擊
ヲ至平ヲシテ沈没ヲ免ルニ材陸軍は用務佐

波九郎也 英人 (Geo. Anderson)

及機園長 (William Kears) 二人之志九

日高玉之出若し十の当地之着七の越三本日常

館ニ出頭は英日人等陳述之據ニテ帝國政府

ノ待遇之亦苛酷ニ使ハリシ (下略)

明治三十二年 丁才智

在倫敦

總執筆 若月正規

お智者証書格下取

別紙ノ事不
知事ハ露島船長信達格下取

文書課長

明治四十年十一月十七日

明治四十年十二月十三日
月十七日發遣

通商局長

代

國

主任

主任

幹事

送第一七八號

在浦港野村領事託 林右臣

船和泉丸 (原重徳船主 今捕せり)

宣統三年十一月十日

外務省

新會縣民大坂鮫吉所有船和泉丸(噸數
八十二噸)八明治三十八年八月十日
仲合軍海軍に於て油難に遭遇し露領
ナルカ港沖合に漂着し(九段)四月廿三日
露領に消息を以て捕せり今捕せり引致
せり船長以下ノ人ハ捕知後送還せしむ
該船ノ消息ニ付テ其後聞ク又ナク該船
殘存ノ消息ナシ

向海上位加、對元露正官意、各又分、聞し
取煩方、位加、主、有、取、出、小、付、給、大、給、書
事、及、送、付、以、茶、和、
正、何、分、備、内、田、報、有、以、交、此、段、申、進、出、
途、之、別、紙、以、内、田、報、際、中、正、原、有、以、交、

抄

(大坂經者何書情付ノリ)

外務省

所

外
務
省

日本
 外務省
 記録
 部
 資料
 館
 蔵
 本
 籍
 資料
 館

5-0363

0255

19

大臣 

電信課長 

次官 珍田

主管 

電受第一三三三號 明治廿七年七月五日 午後十時三十分 發

外務大臣 齋藤 有吉 領事

才四十二號

梅浦借受、英國汽船「チンテンハム」
東京鐵道材料ヲ積載シ二月廿

外務省

八日ヲ樽出帆本有二月廿港着豫定
ノ欠未々到着英或ニ途上捕獲セシ
先ヤ疑リ其筋ノ消息アリ次芽
中重報ヲ乞フ

PH 録五、一〇八

封
20

封

右方伝子

大臣

十四号

二階外報伝ハ
有書

貴電第四二号ニ答シ
オハシケル事ハ申上ル

市ノ電報事ハ
先立ハハ日事也
於テ電報事ハ

ノ事ニ補復ス
七月音申候
如ク到目見旨ハ

電報、見エ

外務省

電報第七九三號
明治三十七年七月九日
発

明治三十七年七月九日

電報三回をスレ

御願

受取 九四八〇號

拙者ニ於テ京釜鐵道株式會社ノ鐵道材料運搬ノ爲メ備入居テ英國汽船チユルテレハク舞義北海道小樽港ニ於テ枕木木材等ヲ搭載シ去六月貳拾八日午前拾時全港ヲ出帆シ韓國釜山港ニ向テ日本海ヲ航海中露國巡洋艦ニ捕獲セラレ本月五日浦塩斯德港ニ到致セラレタル趣英國倫敦船主ヨリ電報及ヒ去ル拾日浦塩艦隊ノ公報ナリト稱シ二三新聞紙上ニ記載シアルモノヲ以テ承知仕美然ルニ何レモ其捕獲セラレタル日時及ヒ位置ニ就キ詳報ヲ欠キ居美ニ付自然御省ニ於テ右等ノ事矣判明仕美ハハ下御手教拙者ハ御通知被成下度此致奉願矣也

明治七年七月拾貳日

東京市京橋區本橋町五丁目十一番地

梅浦精一

外務大臣男爵小村壽太郎殿

聖
の
ア
ラ
シ
ト
と
号
ノ
儀
一
冊

卜
券
一
冊

5-0363

0259

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

大臣 次官
政務 通商 人事 會計 取調

Via

生動

Dated, London, July 15th, 1904 . 1.10p .m.
Received, " 16th, " 6.35a .m.

Komura,

Tokyo.

終
海
員
各
大
臣

199. Replying July 14th to question put on the subject of seizure of Allanton, Mr. A. J. Balfour stated in House of Commons to the following effect:-

British Ambassador to Russia has pressed Russian Government for an official statement of the grounds on which the vessel was condemned by the prize court at Vladivostock. British Government have further instructed him to be informed of the date on which the appeal in this case will be heard and to represent to Russian Government the loss to which the owner is exposed by the continued detention of the ship as well as desirability that there should be no delay in dealing with case. On the same day answering a question regarding reported search made in the Red Sea by the Petersburg of Russian Volunteer Fleet on two British steamers, Lord Percy stated that inquiries are being made.

Hayashi.

電受第 2662 號
Wds. 5

5-0363

0260

廿二

電信訳文

倫敦発三十七年七月十九日発
東京着 全 全

小村外務大臣

在英 林全権公使

第一九九号

七月十四日首相バルフォア氏ハ下院ニ於テ「アラント」ニ奪
捕、件（浦潮艦隊、奪捕ニ係ル）ニ関シ質問ニ答ヘテ
曰ク

駐露英國大使ハ露國政府ニ對シ在浦潮捕獲審檢
所ガ本船没收、眞告ヲ與ヘテ理由ニ付公然、説明
ヲ要求セリ英國政府ハ又本件控訴審理、期日
ニ付通告ヲ得ニコトヲ大使ニ訓令シ且引續キ本

船抑留、為ノ船主ノ受クヘキ損害及本件、處置ニ
遲滞アルヘカヲサレ旨、希望ニ付露國政府ニ申出
ル大使ニ訓令セリト

露國義勇艦隊ニ屬スル「ヘーテリスブルグ」ガ英船ニ隻臨
檢、報ニ関シ同日外務次官「パル」ニ郷ハ質問ニ答ヘ
テ本件ハ目下取調中ナリト云ヘリ

ワタトク

高野初七ノ二早
二書信ニハニマニナリ

小村ト
林ト

ナニカ

後田ノ書信ニハニマニナリ
高野初七ノ二早
二書信ニハニマニナリ
ナニカ
小村ト
林ト
ナニカ

外務省

高野初七ノ二早
二書信ニハニマニナリ
ナニカ
小村ト
林ト
ナニカ

後田

高野初七ノ二早
二書信ニハニマニナリ
ナニカ
小村ト
林ト
ナニカ

高

抄 22
治更

皇統七年八月九日

王宮政務

生

10-10-01

公未六九
殿不甲塩推後ニ捕倉也
先般捕塩推後ガ林原邊船寄
陸九考ラ好子内シク果帳ノ存次
捕庫ニシテ美島船ノ下ニ上民ノハ
用塩出仕ニテ着極ノ上信又ノ
宣告ニ及ル之類ハ船寄ノ高野
勿得者品船船船船船船船船船
想来不記海番ノ居住代ノ後ノ
在英國 本公使館

先般捕塩推後ガ林原邊船寄
陸九考ラ好子内シク果帳ノ存次
捕庫ニシテ美島船ノ下ニ上民ノハ
用塩出仕ニテ着極ノ上信又ノ
宣告ニ及ル之類ハ船寄ノ高野
勿得者品船船船船船船船船船
想来不記海番ノ居住代ノ後ノ
在英國 本公使館
此ノ由ニ由ルニ類ノ者ガ切
甲下院ニ於テ中付ノ旨ヲ並同
之ガ務方何務也、由云ク依ルハ
美七何有ハ、一、海子何有、計シ官及
肥田ノ旨元報、通テ永、由十、
目下、後、好、子、内、シ、ク、果、帳、ノ、存、次、
在英、持、序、在、行、可、便、子、好、林、也、
方、勢、未、以、官、考、七、其、書、在、行、也、



20

明治七年八月九日

手書 珍密

終

一〇八〇田

公才六九平
廣平甲塩雜段之捕食也
北之屋号商地アミト号ノ

次
野

先如南塩雜段が林原屋敷等
陸九考ヲ採りシテ果敢ノ存
捕食ノミナリ
直告ノ意ハ之ノ趣ニ
勿論名品如故毎書名
想来不記捕獲ナリ
在英國日本大使館

取此之故ハ之ノ趣ニ
野ノ下段ノ旅ヲ中付
高野方ハ約務有
系七回有ハ一
肥田ノ旨元報
目下該段ハ
在英領事館
切手報在野ノ故
の旨七年七月
在英領事館
本館より寄考



H
23

THE SEIZURE OF THE STEAMSHIP ALLANTON.

Mr. WOLFF (Belfast, B.) asked the Under-Secretary of State for Foreign Affairs whether he was aware that the British steamer Allanton, whilst proceeding from Marsran, in Japan, to Singapore, with a cargo of coals consigned to a British subject, was seized by a Russian vessel and taken to Vladivostok, and had since been condemned there as a prize and confiscated; and would he state what steps his Majesty's Government proposed to take in order to obtain the release of the vessel.

EARL PERCY (Kensington, S.).—His Majesty's Government are aware of the fact and are in communication on the subject with his Majesty's Ambassador at St. Petersburg, who has asked to be supplied with an official statement of the grounds of condemnation. They understand that the owner of the vessel has taken steps to lodge an appeal, for which a month's time is allowed, to the Supreme Prize Court, which will sit at St. Petersburg; and, in these circumstances, his Majesty's Government must await the decision of that tribunal before deciding what, if any, representation they can properly address to the Russian Government when the full facts of the case are before them.

Mr. WOLFF asked whether the appeal was to St. Petersburg.

EARL PERCY.—Yes.

Mr. WOLFF asked if nothing was being done meanwhile.

Mr. J. DEVLIN (Kilkenny, N.) asked was there an English representative at Vladivostok.

Mr. T. W. RUSSELL (Tyronne, S.) asked if an appeal had been made.

EARL PERCY.—The minimum time for appeal is, I think, a month; perhaps a little longer.

Mr. T. W. RUSSELL (Tyronne, S.).—If the captain and crew are confined, how can an appeal be made? It is a very serious matter for the owners of this Belfast vessel.

The following letter, dated July 1, has been sent to Mr. Balfour by Colonel Sir H. M. Hoiler, secretary of Lloyd's.

"I am instructed by the committee of Lloyd's to beg that you will be so good as to give such consideration as you justly can to the case of the steamer Allanton which has been seized on the high seas and carried into Vladivostok; where my committee understand she has been confiscated as a lawful prize.

As it appears from documents which have been laid before the committee of Lloyd's that this vessel was not engaged in carrying the cargo of a belligerent Power, but was merely carrying a cargo of coals to a neutral port, it seems to my committee that her condemnation and confiscation are wholly unjustifiable.

My committee will, therefore, be very grateful if you will be so good as to allow this matter to be carefully inquired into; and, if the view held by my committee be found to be correct, they hope you will allow representations to be made on behalf of the Government of his Majesty the King of England to the Government of his Majesty the Emperor of Russia protesting against the unlawful seizure of the Allanton and her cargo.

Mr. T. M. Devitt, president of the Shipping Federation, also wrote on July 1:—"Mr. William R. Red has laid before the Shipping Federation, of which he is a member, the circumstances of the seizure by a Russian squadron and subsequent confiscation by a Prize Court, held at Vladivostok, of his steamer Allanton. The situation is one of extreme gravity, for the owner of the Allanton, who avers that he was absolutely free from any intention to infringe the law of neutrality, and a careful examination of the circumstances leads to the conclusion that there has been in fact no infringement. Apart from the hardship to the owner of this particular vessel, I am requested to respectfully urge upon your notice the consideration that the precedent adopted in this case by the Russian authorities constitutes a grave menace to British shipping trade in the Far East. I therefore desire to express on behalf of the Shipping Federation the earnest hope that his Majesty's Government will take immediate steps to secure the prompt release of the Allanton in order to minimize the heavy loss which her detention imposes upon the owner, and will following the most recent precedent of a case of improper seizure—obtain from the Russian Government adequate compensation for the damage suffered through the unwarrantable capture and detention of the vessel."

THE ARREST OF THE S.S. ALLANTON.

We understand that the following petition, which sets forth the case for the owner of the steamship Allanton, which was seized by the Russians on June 16, will be submitted to the Prime Minister by the Chamber of Shipping of the United Kingdom:

"1. The Allanton is a steamer of 7,000 tons dead-weight, built at Sunderland in 1892, and owned by William R. Red, Belfast.

"2. On January 1, 1904, previous to outbreak of war, she was chartered to Messrs. Lambert Brothers, Gracechurch-street, London, to carry a cargo of coal from Penarth to Hong-kong, for orders to discharge there or at Esaseho, Japan.

"3. The cargo was duly delivered to Messrs. Lambert Brothers nominees at Esaseho.

"4. The steamer was on April 20, 1904, chartered to the Hokkaido Tanko Tensha Kaisha, Yokohama, to carry a cargo of coal from Muroran, Japan, to Singapore.

"5. The steamer proceeded to Muroran and loaded for Singapore, the cargo being consigned to Messrs. Paterson, Symons, and Co., British merchants at Singapore.

"6. The steamer sailed from Muroran on June 13, 1904, for Singapore, proceeding by the West Coast of Japan, which was her direct course.

"7. On June 16, 1904, she was overhauled by a Russian cruiser and taken as a prize to Vladivostok, and on June 27, the owner received a cable message from the captain stating that the Prize Court had confiscated both ship and cargo, and that appeal must be lodged within one month.

"8. Although the news of the arrest and subsequent condemnation was published, no protest has been made by the British Government. The steamer, cargo, and British crew still remain at Vladivostok, and the British Foreign Office, although applied to, is still unable to state the grounds on which the steamer was arrested, or even where the Appeal Court will meet.

"9. There is no British representative at Vladivostok, and the owner of the steamer has therefore been deprived of all protection or assistance, and is entirely at the mercy of the Russian Courts.

"10. The London Gazette of March 18, 1904, sets forth the Russian regulations as to naval prizes, &c., and declares (Clause 11) that merchant vessels of a neutral nationality are only liable to confiscation as prizes when conveying cargo to the enemy or to any enemy's port.

"11. The steamer Allanton was not carrying anything to an enemy of Russia or to a port of such an enemy, and therefore the arrest and confiscation of the steamer is wholly unjustifiable.

"12. The high-handed procedure of Russia in arresting and confiscating the steamer is a grave menace to the shipping and mercantile world, there being no security for commerce under such circumstances.

"13. There are numerous British and other vessels trading under circumstances exactly similar to those of the Allanton, and unless immediate and very vigorous action be taken by the Government, further arrests and confiscations may take place at any moment.

"14. It seems from the London Gazette of March 18, 1904, already referred to, that the Supreme Prize Court must be held at Vladivostok (where there is now no British representative), and that two Senators of the Fourth or Civil Cassation Department, &c., are required to constitute the Court, and as these gentlemen presumably cannot be at Vladivostok, the steamer with her crew may have to be there quite indefinitely, and subject to the risk of bombardment by the enemies of Russia. It is therefore all-important that her immediate release should be demanded.

"15. There is no appeal from the Supreme Prize Court, which is another reason why instant steps should be taken.

"Your memorialists earnestly pray that his Majesty's Government will take prompt steps to secure the immediate release of the steamship Allanton, together with full compensation to her owner for the delays and losses which he has sustained by reason of the improper seizure of his vessel by the Russian Government.

Signed on behalf of the Chamber of Shipping of the United Kingdom,

W. H. COOPER, secretary.

在英國日本公使館

#7
24

號 第

SEIZURE OF THE STEAMSHIP ALLANTON.

TO THE EDITOR OF THE TIMES.

Sir, The steamer Allanton, while on a voyage from Muroan, Japan, with a cargo of coal for a British firm at Singapore—a British port—was seized by a Russian cruiser on the 16th ult., taken to Vladivostok, and steamer and cargo were there condemned by the Russian prize Court and confiscated. I have only now received the grounds of condemnation. Although applied for several times. They are as follows:—

1. That the steamer was passing through the Japanese Sea instead of through the Pacific.
2. That there was on board a Japanese cabin boy in addition to the British officers and crew.
3. Absence of proof, that the Japanese company which had chartered the steamer had sold the cargo to a neutral party.

It is stated that on these grounds the Judge is convinced that the steamer was not bound for Singapore but for a Japanese or Korean port. My answers to these charges are:—

1. The steamer was on her direct and shortest course from Muroan to Singapore, as any one can see who will take the trouble to look at a map of the Far East.
2. Whether there was a Japanese boy on board I have no knowledge, but it is a very usual occurrence in the case of ships trading in the East, and I have yet to learn that it is a punishable offence.
3. The steamer would have on board a copy of the charter and bill of lading for Singapore. If further proof is required, I am prepared to prove beyond doubt from documents that the consignees of the coal were Messrs. Paterson, Simons, and Co., of Singapore, the cargo being part of a contract made in December last year for some 50,000 tons to be delivered at Singapore.

Notwithstanding these facts, my steamer and her cargo are still detained at Vladivostok, and I am told that my only course is to appeal to St. Petersburg. The British Government states its inability to interfere to protect the persons and property of British subjects until an arrest and condemnation arrived at under such circumstances is appealed against in the Russian Courts; no one knows how, or when, or on what evidence, this appeal can be heard and determined. Surely the common-sense mode of dealing with the matter would be for the Government to demand in a friendly way the immediate release of the ship and crew, and so get the Russian Government in the easiest way out of a grave mistake, rather than allow an appeal prize Court to perhaps confirm the decision of the Court at Vladivostok, when it would be all the more difficult for the Russian Government to go back on these decisions. The Russian Government cannot desire to stir excitement in Great Britain over a matter of this kind.

When a German steamer was seized by the British during the South African war, I understand the release was promptly demanded and obtained without waiting for the decision of any prize Court, and compensation was paid for the detention. Will the British Press, British shipowners and merchants, after a consideration of this case, be satisfied with the manner in which it is being dealt with by Government?

I am yours faithfully,
W.M. R. REA, Owner of s.s. Allanton.

Hotel Cecil.

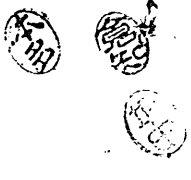
後 孫 氏 馬 寿 小 抄 壽 會 誌

新 年 紀 念 會 小 抄 壽 會 誌

三十七年八月廿五日接受
主 管 政 務 局
受 監 一 二 七 九 七
本 年 七 六 年 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一
浦 邊 捕 獲 直 光 一

明治卅七年八月廿五日接受
主 管 政 務 局

生



24

25

78

British Legation

Aug 28 '04

Dear Baron Komura

You will remember

that some weeks ago the
British Steamer "Allanton"
was captured by the Japanese
Squadron and taken to that
place, she was tried by the
Tribunal and condemned.
I have this morning received
a telegram from Andrusovna

5-0363

0267

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

saying that one of the grounds
which led to the condemnation
of this vessel was the presence
on board of her, of a Japanese
subject named MIHARA,
who alleged that he was going
from Muroran to America
to educate himself.

Mr. Mihara had no papers,
and the Court in view of
the Japanese regulations respecting

military service, and the fact
that he could not leave Japan
without a permit and a
foreign pass, did not believe
what he said.

The owners of the "Allanton" are
going to appeal, and had I
asked me to telegraph Congress
which I can obtain to refute their
allegations, if possible. I know you
are very busy, but could you direct any-
body in the Foreign Office to help me in
this matter. The answer, if there is one,

5-0363

0268

Should be sent within the next
three or four days.

Yours very sincerely
Candlish

I am coming to sign the Convention
(Indian) at 10. am tomorrow

5-0363

0269

#7
26

Holler
Wrecks Kyathin

29/8/37

Dear Mr. Holler,

Regarding the Allanton matter,
the following is what I could gather
from information furnished to me
by the Mitsui people.

電受第

There was a Mr. Miyahara who
probably dead who was formerly
employed in the Hokkaido Colliery Railroad
Company. His son has been studying
English in Muroran is said to have
offered the company to serve as a body
in ~~one~~ one of the company's ships when he
thought he might have occasion to learn
English. The young Japanese on board
the Allanton is therefore supposed to be
Miyahara the son, who may have
succeeded in obtaining his long cherished
seamanship employment in the steamer ^{about his}

號

No other details are obtainable
in ~~his~~ his dad if Sir Claude desires it we
may telegraph to the Helling R.R. Co. at
Muroran although I do not think any other
valuable information is forthcoming ^{from their source} by doing so.
Yours truly

5-0363

0270

29

又

之、封、封、三、七、日、和、文
以、英、法、文、一、部、送、附

British Legation
Tokyo.

September 26, 1904.

Dear Mr. Ishii:

You will recollect that, about
three weeks ago, I came to see you on the
subject of the passport regulations for
Japanese going abroad, in connection
with the seizure of the British S.S.
"Manton", on board of which was a
Japanese unprovided with papers, a fact
which the Russian prize court
considered suspicious, and tending to justify
the

5-0363

0271

the condemnation of the vessel.

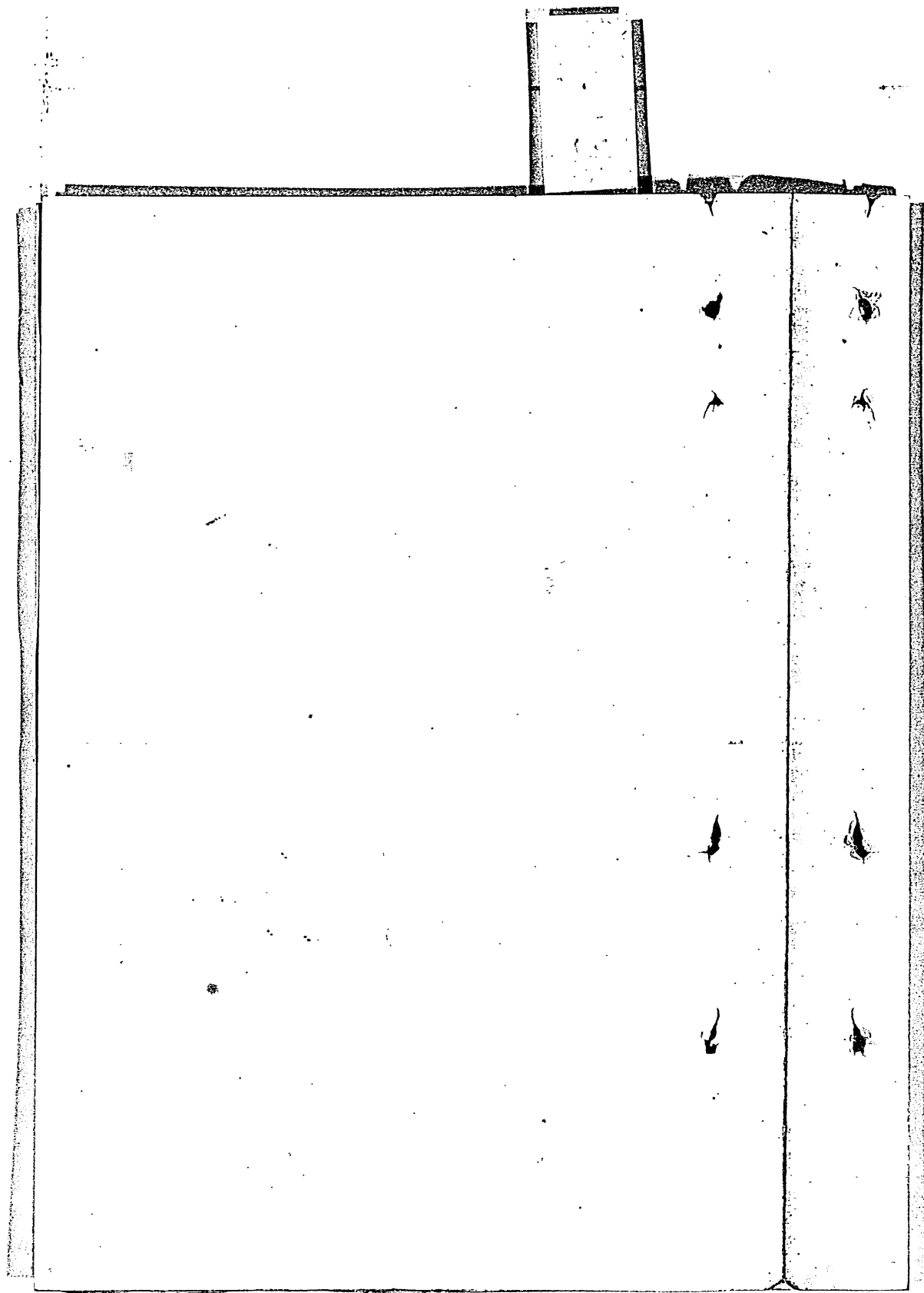
Lord Laurdowne has now sent a telegram, directing us to forward to our Ambassador in St. Petersburg, as soon as possible, Japanese passport regulations, for use in the case.

It would be very kind if you could send us copies of the regulations in question with as little delay as may accord with your convenience, in order that Sir Claude Macdonald may be able to certify their authenticity and to forward them immediately as requested.

Believe me,

Yours sincerely,

W. B. Hooley



5-0363

0273

27
28

27
28

Aug 30, 1904.

Dear Mr. Ishii.

Many thanks for your letter of yesterday. Si Claudio is much obliged for the information it contains, and he does not think it necessary to search for further details.

Believe me
Yrs sincerely
W. Holler

管轄
事務
シ
レ
テ
ス
ル
事
ト
ス

Sept. 27th 1904

Dear Mr. Holler,

In compliance with your request made in your note of the 26th inst., I hasten to send you ~~the~~ ^{an} enclosed, a copy of the Regulations concerning passports and their English translation.

yours sincerely
(Signed) Ishii

A man named Mutakawa was on the
St. Manton. He said he was going
to America from Manton to finish
his education. He had no papers.

The Blackiston's inspectors made
this one of the grounds for condemning
On Manton, for they did not believe
what he said, thinking it would not be
possible for him to leave Japan
without any formal or foreign pass,
in view of Japanese laws as to military
service.

第30号

高警第四六一五號

露キニ露國軍艦、爲メニ捕獲セラレ捕塩斯
德ニ抑留セラレタル英國漁船アラントン號
ハ今般解放セラレ十一月十四日室蘭港ニ
入港シタリ當時ノ状況ニ関シ同船長ハ
一カエーミツケエルノ陳述スル如ク別紙ノ如ク
右ノ報告ニ候也

明治三十七年十一月十六日

北海道廳長官男爵園田安賢

外務大臣官房付少輔大石

通報先

外相外相海相陸相参事七廳長官海軍大臣
官海軍防衛部事務長海軍省事務長
海軍省事務長

生
田

24

24
31

一 当時状況

アラントニ号ハシニガポールパターソンサイモン商會行石炭六ヶ嶼ヲ当室蘭港ニ於テ積載シ同地へ向ケ航
行ノ途明治三十七年六月十六日午後九時半沖ノ島
附近ニ於テ露艦三隻ヲ認メタリシカ直ケニ追跡シ
リ同九時五拾四分ニ至リ一露艦ヨリ空砲ヲ放ケ同時
ニ停航信辨アリタルニヨリ停航シタル処午前七時
五分至官来リ船内ノ書類ヲ携リ帶シ暹轉午ヲ拒
ミテ旗艦ロミア號ニ同行シ同十時四十五分同船ヲ
捕獲スル旨言渡ラ受ケ同十一時四十五分二等暹轉
午及水夫十名外室蘭ヨリ乘船シタル日本人ボ
ノ名ヲ引致シ旗艦ヨリ士官三名水兵四名来
リ同船ヲ差押ヘ先ニ押収ノ書類ニ對スル領収證
ヲ交付セラレタリ

一 差押後ノ處置

同日午後零時二十分露艦ヨリ乘組ニタル士官等ノ
指揮ノ下ニ浦沙ニ向ケ出帆シ同月十八日午後八時
十分アスエルト湾ニ入り投錨同月十九日午前四時
同湾投錨アール湾ニ寄港同日午前十一時浦沙
ニ入港ニ午後四時度船ニ突カレ棧橋ニ繋留セ
リ
同日二十日海軍ノ判事ト云フヘキモノ及通譯官等
同船ニ来リ船長暹轉午等ニ種々ノ尋問ヲ試
ミ其夜ヨリ武裝ノ士官三名水兵十五名来リ
警戒セリ
同二十一日午前五時ヨリ石炭陸揚ニ着キ船長
暹轉午火夫式名ヲ審判所ニ同行ス同二十三日船
長及日本人ボーイヲ除ク外餘テ放還セラレタリ

附録五二一〇

陸揚着午ノ石炭ハ七月五日ヲ以テ終リ其間日
曜日ヲ除ク外ハ乗組員ヲモ石炭陸揚ニ従事
セシメタリ
抑留中ハ飲料水ノ給與ヲ受ケ其他何等ノ給
與ヲ受ケス抑留中露人ノ行動鄭重ニシテ
些ノ暴状ヲ見ス
解放

十月二十七日スクリドルノ参謀長来リ政府ヨリ同
船ヲ釋放スヘク命令アリタル旨通知シ同日三
十一日望蘭ニ向ケ出帆スルモ差支ナキ旨言渡サ
レタリ

一 積載シタル石炭

總テ陸揚シタリシモ、ミンガポール、パターソン、サイモン商
會ノ主張ニ依リシテ弁償シ抑留中同船ノ費

消シタル分ヲモ償セテ弁償セリ

一 出帆及入港

十一月九日午前十二時十五分浦汐出帆同日十三日午
前十時望蘭入港

一 浦汐出入警戒

入港ノ際ハ露國士官ノ指揮ノ下ニ入り出港ノ際
ハ水先案内者ヲ同船ニ乗込セ同船ノ後ニ
運送船尾行セリ

一 浦汐警備ノ状

同地ニハ五万ノ兵ヲ駐屯セリト聞ク現ニ市街民
家窓テ坐食セリ殆ニト兵ヲ以テ充タル山上又
天幕ヲ張りテ在シアリ一海軍士官ハ本月々末
月中ニ更ニ七万人来着スト語りタリト云フ
砲臺其他ノ防備

港内砲泊中各山頂等殆ニト砲ナラガハナク見タルモ
 其数砲種等ヲ知ラス
 港内ニロニヤ、クロニボイ、ホカケール三隻ノ軍艦アリ
 ホカケールノ損傷頗ル大ナル如ク全部浮上ラス
 大解艇許多ヲ以テ僅カニ浮上セシメ之ヲ引揚
 クル尚一年間ヲ要スハク、クロニボイハ斷ク修繕ヲ
 終一試運轉中擱岸シ修繕容易ナラスロニ
 ヤ又破損大ナル由ナリト
 水雷艇十隻位ト認メタルモ互ニ衝突シテ著シク
 破損シタルモノアル由
 荷行艇一隻アリ水面標旗突出シアルノミ未タ
 艇体ヲ見タル事ナシ
 運送艇大ナルモノ四隻アークンテ今七位グラゲニス
 五千位位エルサ三千位位、ポイント千位位小ナル

モノ四隻アルモ其名不詳
 港口ニハ防材ヲ認メ得ラレ航行口ヲ閉キ出入シ
 夜間ハ閉鎖ス
 水雷ノ布設ハ更ニ知ルヲ得ス
 抑留中ノ艇員
 日中ハ隨意上陸ヲ許サレタレモ夜間又ス在艇
 セサルハカラス上陸中防備ノ状ヲ知ルノ途ナカリシ
 捕獲セラレタル原因
 アラントニ群、臨候ヲ受ケタル降回艇々長ハ五
 月以降日誌ノ記載ヲ急リタル者ヲ尋問
 ヲ受テ英國漁艇ニシテミカボールニ航行ス音答
 ハタルモ第一日誌ノ記載ナキヲ怪シ且ツ之ニ
 カボールノ航路ハ太平洋ヲ行クハキニ日本
 海ヲ通過スルハ及スヤ日本軍ノ若人ニスルモノナルハ

シト又ドットウエル商人會ハ日清戦争当時日本ノ
青メ圖リタルモノナリトシ捕獲セラレ、ニ至リタルカ
如シト

一 乘組員ニテ帰還セサル者

コック一名病氣ノ者ノ浦汐ニ於テ入浴シタモノ一
名日本人ナリシボ、イ一名同船々長等ナリ船長
ハ已ニ露都ニ送致セラレタリト而シ同船長及
本邦人ノ氏名左ノ如シ

札幌 官原千城 十八年
船長 ハーレトモケヤ

佐渡丸建造、際中卸人ヲ救助シ其船中
ハリ船長ニ紅綬褒章ヲ賜フ

卜
各
録

24

5-0363

0281

送第五四六號

受領一五五の號

管人事務

ナ

本館に在るべき書類の
引当を以てしるべきなり

去りて、有及通候、陸軍、大官連署、
國人、アイ、キヤム、人、
本人の姓名、
此の如き、
ハ、

如右の如し

三十七年九月廿一日記

明治十七年九月三日接受 管人事務

送第五四六號

英國汽船、
後、
裁、
方、
ハ、

一、
一、
一、

鳥

官秘第ニ七二九號

秘書課長

逓信大臣

次官

鐵道作業局長官

管船局長

陸軍大臣

次官

人事局長

外務大臣

次官

人事課長

外務省

人命救助者英國人褒賞ノ件

英國蘇格蘭レイス港

ダネデン汽船會社所有ダンバー號船長

A. J. Campbell. エイ.ジェイ. キヤムベル

本年六月十五日玄海洋ニ於テ運送船佐渡丸遭難ノ際
 野戰鐵道提理部員鐵道書記佐伯彪以下七十名ハ
 眇タル一隻ノ水船ニ乘シ本船ヲ退キ渺茫タル海上ニ漂
 流スルコト三十二時間飢渴困憊象負殆ント瀕死ノ境
 ニ在ルニ當リ十六日午後五時五十五分大島沖ニ於テ偶々右
 「ダンバー」號ニ出會シ茲ニ初メテ全船ノ救助ヲ受ケ候處
 船長キヤムベル及同夫人ハ船員ヲ指揮シテ或ハ衣服飲
 食ヲ給シ或ハ傷病者ヲ介抱スル等懇切至ラザルナク
 且時ニ全船ヲ長崎港ニ迂回セシメ伊王島附近ニ至ルヤ

偶ニ水雷隊附水路嚮導船豊川丸来リタルヲ以テ一同
ヲ全船ニ移乗セシメタル等其行為奇特功績顯著
タル者ニ付褒章條例ニ照シ褒章下賜ノ御詮議相
成度別紙關係書類相添此段及申牒候也
三十七年八月十七日

外務大臣
陸軍大臣
逓信大臣

賞勳局總裁宛

外務省

文書課

有附屬物

42

明治廿七年 九月廿二日 起
同 年 月 十日 日 發

主任

係 倉本 康之助

次官 人事課長 杉

小村 大伴

在案 林 公使 札

紅毛船長等及貨物に送付

件

外務省

美國蘇格蘭ロイス港

ダネデン汽船社所有ダニール号船長

J. J. Campbell

九月廿二日 運送船長等

遭難ノ際野戦鉄道提理即負鉄道責任に依り

船以下七十名、船一隻、水船二隻と本船は

渺茫な海上に漂流するに三十二時間飢渴困憊

衆負殆ど瀕死ノ境に在り十六日午後五時

5-0363

0286

大書齋

明治三十二年九月十二日

有附屬物

明治廿七年九月廿二日起
同年九月十日發遣

主任

係

係

係

次官 人事課長

小村 久良

在案 林公使 光

紅十字會及赤十字會の送付、

件

外務省

美國蘇格蘭レイス港

ダネデン汽船社所有のダネデン号船長

J. J. Campbell.

九月廿二日十月十日海上の運送船が沈没し

遭難、陸野我鉄道提理部員鉄道主任佐伯

彪以下七名の助一、水船に乗る本船は

渺茫な海上に漂流し、二十四時間飢渴困憊

衆負傷し、瀕死の境に達し、九月十六日午後五時

五十五日大島沖に船を擱したるに、（前記）
船員等も同船に救助を受けし者あり、
（前記）船員等も救助を受けし者あり

及日吏人の如く、指揮する或は衣服飲食を
給し、或は傷病者を介抱する等懇やかならし

且、特命の如く、長崎港に同セシメ、伊豆大島附近に乘
ル中、偶々水雷隊の水雷艇と衝突し、丸末より丸

ヲ以テ、一向の回船に移乗せし者あり、
特別偵察員某等も、付乗せし者あり、
（前記）

外務省

上下船する候儀を、（前記）
送る条は、（前記）

其儀を、
送る条は、

送る条は、

5
R2

明治十八年二月十五日
公才一〇〇號
紅纒唐章及唐章、記傳達、件
三月三日
三月三日
三月三日

本年九月十四日付送第六五號ヲ以テ申送
唐章、紅纒唐章及唐章、記传达、件
宛先、傳達、了、之、天、家、別、信、案、之、所
承、知、之、事、由、了、キ、ヤ、ム、ハ、船、長、ハ、目、下、其
果、白、ク、航、海、中、ニ、在、リ、以、テ、當、該、領、票、之、進
ヲ、送、達、ス、ル、中、該、領、票、之、進、出、ノ、旨、
亦、不、可、成、即、報、致、及、時、申、進、ノ、趣、具、
昭、後、三、年、十、一、月、二、日、旨

在英特命全權公使子爵村
外務大臣田中野村勲大之丞

在英國日本公使館

三月三日
三月三日

5-0363

0289

10 East Hermitage Place,

Leith, Nov. 23rd 1904.

To His Excellency Count Hayashi,
Japanese Legation.

Sir:-

I write on behalf of my father-A.J.Campbell of the S.S."Dunbar" to thank you for the medal and diploma so graciously conferred on him by H.I.M. the Emperor of Japan.

My father considered it a great privilege to be able to help your brave countryman in their danger and will be deeply grateful for this unlooked for honour.

He is at present on his way to Chifu but I shall forward the receipt form for his signature and trust you will excuse the enforced delay.

I am, Sir,

Yours respectfully,

(Signed) Maud A. Campbell

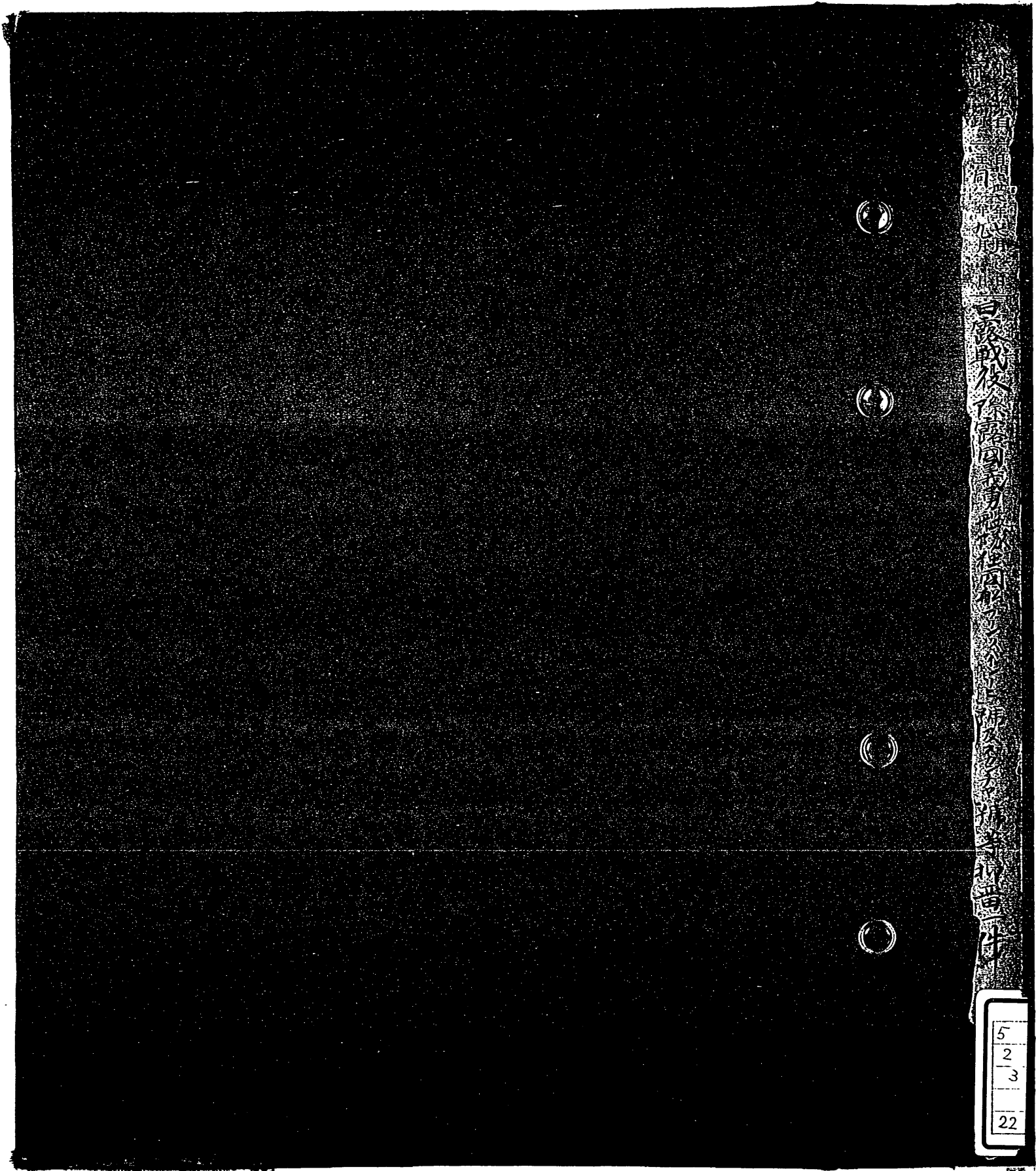
5-0363

0290

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>



5
2
3
22

5-0363

0291